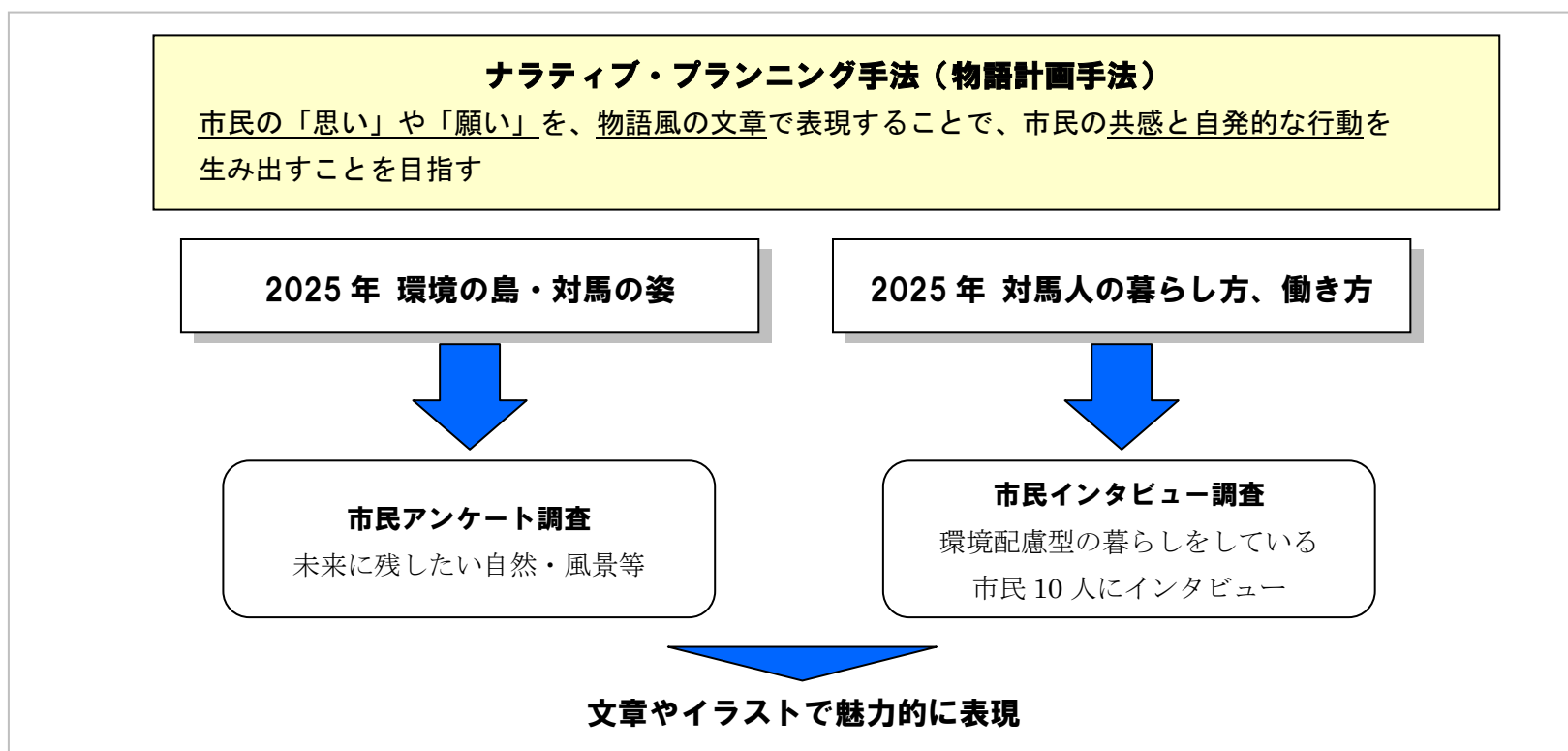


ナラティブ・プランニング手法の活用事例（対馬市環境基本計画）

1 ナラティブ・プランニング手法とは

- ・企業が消費者から愛される商品の開発・プロモーションの手段として、多く活用されている手法。ターゲットとする消費者を想起させるキャラクターを主人公とした物語風の映像や文章などを発信し、消費者の心の中に「このサービスを使いたい!」「こうなりたい!」という思いを芽生えさせるもの。サントリー「伊右衛門」やソフトバンク「白戸家」のテレビCMなどが有名。
- ・近年は地域活性化に用いられる例も出てきており、「対馬市環境基本計画（平成25年4月）」では、「2025年までに実現したい対馬の姿」として、望ましい環境像を物語風の文章とイラストで表現している。
- ・具体的には、10年後に目指すべき環境の将来像を、市民自身の言葉で表現するため、市民アンケート調査および市民インタビュー調査を実施。両調査から得られた言葉をもとに、将来の対馬の環境の姿を物語風に記述している。



対馬市環境基本計画におけるナラティブ・プランニング手法の活用方法

2 「2025年の島の将来環境像」の描き方のポイント

①10年後の市民へのインタビュー方式

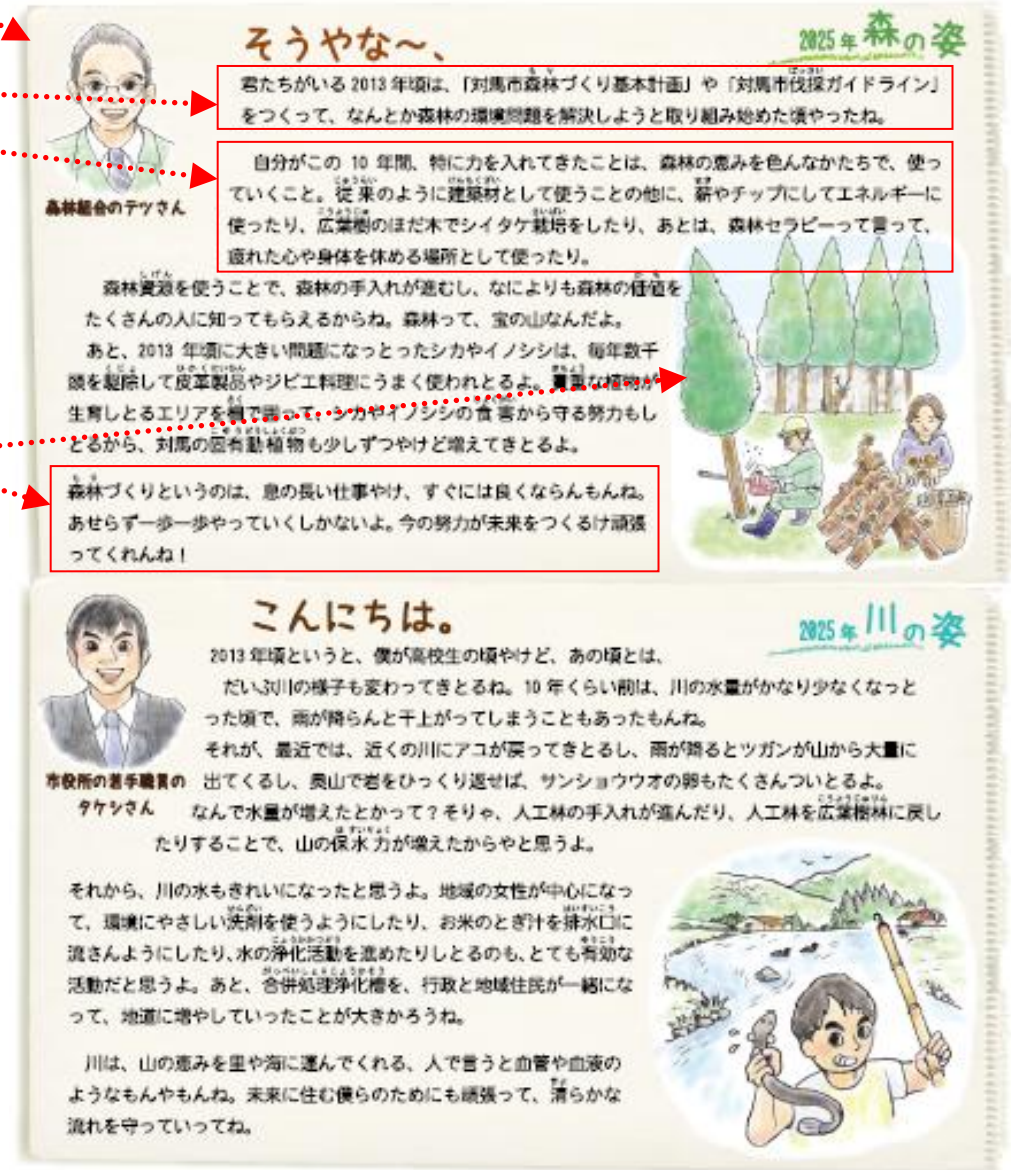
- 単に物語風の文章で表現するのではなく、**将来の自分たち自身にインタビュー**する形を採用することで、より生き生きと描く工夫を実施。

②現状の課題を盛り込み、それをどのように解決していくのかを示す

- インタビューの中で、**現在（2013年頃）の現状や課題**を簡潔に提示。
- その上で課題を**解決していく道筋**を、10年後の市民が振り返る形で記述。
- 環境は急激に改善できるわけではなく、10年ではすべての問題を解決することは困難。しかし、20年、30年後の姿は描くことが困難であるとともに、読み手が現実味をもって受け取ることも難しい。そこで、**時点は10年後に設定し、改善の方向に向かっていること**を提示。

③イラストを用いてわかりやすく

- 将来像は、**イラスト**を用いてわかりやすく示している。
- また、個々の将来像を用いたイラストを1枚にまとめることで**島のトータルな環境の将来像**を描いている。





2025年 里の姿

そりやあもう、悪い返したら、

自分にとっても、地域にとっても、いろいろと変化の大きい10年間やったなあ〜。
まず一つは、環境に配慮した農業が広がってきたことやね。例えば、今僕がいる集落で農業をやっとる農家は、ほとんど全員が、低農薬、冬期灌水・早期灌水など、ツシマヤマネコ印の農法に取組んでるよ。野菜やくだものを栽培している農家も、有機肥料や木酢液なんかを使った自然農業を使うところが増えてきてるね。

自然や環境にやさしい農業に取り組む農家を「つしまエコファーマー」に認定して、そのお米や野菜を、市内の学校給食で優先的に使う制度があったり、対馬市認定「ツシマヤマネコ印のエコ野菜」のラベルを貼って売れる制度があったり、色んなメリットがあることも大きいと思うよ。

そうだ、最近、自然との共生を目指す取り組みの意識が認められて、ユネスコの「生物圏保存地域」(ユネスコ・エコパーク) ということに指定されたよ。人と自然が共生する島として全国のモデルになりたいね〜。



エラそうに話したけど、どの活動も、若たちがいる2013年には少しずつ始まっていたことばかりさ。「未来」はもう始まってるよ。未来から応援しとるけ、頑張ってくれんね!



2025年 海の姿

君たちは、2013年から来たって?

いや〜、あの頃は大変な時代だったよ。なんせ、漁獲量が1970年代の3分の1くらいまで減ってしまっったもんなあ。

漁師のツヨシさん

そんな状況が好転してきたのが、「持続可能な資源管理のための海洋保護区」が設定されてからやね。持続的に水産資源を活用するために、適切に管理するエリアのことやけど。外部の有識者も含めた委員会を立ち上げたりして、みんなで延々と話し合って、対馬の資源と自然を守るために必要不可欠という強い決意で、なんとか実現できたよ。

対馬のイメージ向上につながるみたいで、結果的には、対馬の海産物が以前より高く売れるようになったし、港にも活気が戻ってきて、漁師仲間もみんな喜んでるよ。

もう一つ、うれしいのは、浜に漂着するごみが目に見えて減ってきたことやね。市民や行政が一線になって、自分たちがまずは「海にごみを捨てないこと」を地道に訴えてきたね。海外からの観光客に漂着ごみの現状を見せろろうたりした結果、少しずつごみが減ってきたよ。

2013年の君たちも頑張ってくれよと思うけど、これからもよろしく頼んどくよ。



2025年 まちの姿

そうねえ、目に見える変化としては、自然エネルギーや省エネルギーの設備を入れた家が増えたことから。

主婦のマヤエさん

ほら、あちこちの屋根にソーラーパネルが付いているのが見えるでしょ。太陽光発電、太陽熱温水器、薪ストーブやLED照明がたくさんのお店や家庭で利用されているのよ。

我が家でも、薪ストーブと太陽光発電を入れているけど、両方とも入れて良かったと思ってるわ。電気代、燃料代の節約にもつながるし、何よりもいつも自然の恵みを感じながら暮らせるというのがいいわね。

あと、ハイブリッドカーやプラグインハイブリッドカーのようなエコカーも増えてきたわね。みんながエコドライブを心がけるようになってきたし、人にも環境にも良い方向に向かっていく気がするわ。

交通の利便性は、産業の面でも、暮らしの面でも生命線と言えるわね。だから、道路が広くなったり、歩行者用歩道の整備がこの10年間でだいぶ進んだことは本当にうれしいわ。もちろん、野生動物が安心して道を横切れるためのアニマルパスウェイを設置したり、環境への配慮もばっちりした上での整備よ。

最後に言いたいことは、環境を守る活動って、楽しみながらやるのが大切よ。そうせんと長続きせんしね。あなたたちも楽しみながら頑張ってね。



2025年 ひとの姿

そういえば、自分の家族を見とっても、

環境に対する関心がすごく高くなってきくと感じるなあ。10年前は、海にものを捨てたり、道にごみをポイ捨てしたりする人が目についたけど、最近はそういう人は見なくなったよ。うちのカミさんも、お米のとぎ汁を流さないとか、環境にやさしい洗剤を使うとか、水のことにすごく気をつけてるみたいやし。

サラリーマンのアツシさん

あと、僕の息子なんて、まさに自然博士やね。僕らが子どものときより、よっぽど自然のなかで遊んどるし、虫や花のことを息子から教わりよるよ。やっぱり、子どもが自然のなかで安心して遊べるようになったからだろうね。

それと、幼稚園や小中学校でも対馬の環境や歴史文化をテーマにした授業があるようやね。うちの息子は、この間、地域のお年寄りから、昔の遊びや民話を教えてもらって、喜んで帰ってきたよ。対馬の歴史や文化が、こうして世代を超えて伝わっていくのは、とてもうれしいことやね。

この美しい対馬の自然と歴史文化は、日本、そして世界の大切な「宝物」やち思うけ、市民だけでなく、企業や観光客のみんなとも力を合わせて、未来に残していけるように努力していかないけんね。

